

がもう、約四〇年も前からつづいてきたということです。それを私は、四年生になって初めてしりました。

古い校舎は、私ただけでなくお父さんくらいの人たちから長いおつきあひがあったわけなんです。わたしの今の校舎が好きなんです。だって、おじいさんから、弟までかよった校舎、みんながよった校舎、こわさなくてそのままの校舎とおきたいと思えます。

それに、ミシシシするゆかの音や、風がふくと、ゆれるまじの音ちよつぱりのかいだけなんです。百年たった校舎にまけないように、これからどんなことがあるかわからないけれど、がんばりたいと思えます。

### きょうなら

#### 校舎

五年 橋本 理恵

「校舎が取りこわされる」と先生から聞いた時、一しゅんおどろきました。そして、なんだか仲のいい友達と別れるような、さみしい気持ちになりました。

私達の校舎は、古くなったので取りこわして、新しく建て直すことになったのです。

取りこわしが近づいたある日、学校会で、かいだんぼうす、を記念に取っておいこうというになりました。

私は、休み時間に、かいだんば

うす、を見に行きました。かいだんぼうすは、木目がきれいして、てくてか很漂亮がしていました。

私達のおにいさん、おねえさんそして、お父さん、お母さん、みんな、おじいさん、おばあさん、今の私と同じように、このかいだんぼうすを、さすすてきたんだなあ、と思ふと、なんだか不思議な気持ちになって来ました。

そして、百年も前の校舎、私達を見守りつづけてきてくれた、かいだんぼうすが、なんだか親しい友達のように思ふときも打つたです。もう、そんな友達でもお別れです。もっと大切にしておけばよかったと、つくづく思います。

でも、こわされるは決つた今、古い校舎のおんまで、新しい校舎を大切にしていかなければならぬと思いましたが、きょうなら

### 校舎よ

#### きょうなら

六年 高橋弘実

私たちの校舎は、例、数日で、こわされてしまいます。校舎が、こわされてしまつたら、六年間の思い出が消えてしまつたように感じます。でも、現在は、写真があるので、校舎の姿は、何年でも見る事ができます。けれど、いろいろな、校舎の思い出は、写真にとることは、できないので残念です。でも、この六年間の、校舎との思い出は、私の心の中では、消えはしないと思っています。

ふだんは、校舎のありがたさは、身にしみません。だけど、校舎のありがたさと、考え、六年間をふりかえると、校舎があるから、私達が、いろいろなことが、

集えられ、勉強できたのも、校舎があったからです。だから、私達は、校舎に、感謝しなければ、ならないのだと思ひます。

校舎は、人間にたとえると、りっぱで、たくましくて、たよりがいのある、人間なのだと思ひます。私達の校舎は、五十年金持ちです。だから、数多くの人々が、この校舎を勉強し、私達と同じようなことを、学んだと思ひます。卒業していった人々は、校舎が、成長できることを喜び、私と同じことを、思っているのに、ちがいないと思ひます。

こわされるまでは、校舎を、だいにしたいと思ひます。

### 思い出の校舎

六年 田村 洋美

六年間の思い出の校舎を今度、校舎交換のため、取りこわすことになりました。

この校舎には、思い出がたくさんあります。一年生の教室には、一年生の時の思い出、そして六年生の教室には、六年生の時の思い出があります。なん年の時だったか、そつじの時に、小さな物を二階のゆかの穴から入れると、一階の真下の教室に落ちてゆくことや、おもしろく、なん度もやったことや、一階の教室にいると、二階がともるさく、感じたのを覚えています。



●解体される校舎

校舎を取りこわすことになり、初めはまるで、悲願していませんでした。用意などを始めるにつれて、なんだかさびしい気持ちになって来ました。

私たちは、新しい校舎には、入られませんが、初めは、とてもうれしく、下級生を、うらやましく思っていました。そんな私も、だんだん、この校舎で、六年間勉強できなかった、下級生が、なんだか、かわいそうに思ふようになりました。私の家では、お父さんも、お母さんも、お兄さんも、そして、地方へ行った、おじいさん、おばあさん、この校舎をこわすことを聞き、とても、残念がりました。もちろん、私も、残念がりました。そして、私も、思い出深いこの校舎を取りこわすのは、とても残念です。



▲校舎をうしにりに記念撮影をする六年生と先生たち